

大正十二年（一九二三）七十歳のときに枢密顧問官に任命され、国の政治の相談役となった。

晩年ばんねんになつても、朝は五時に起きて入浴にゅうよくし、六時に朝食をとる。また、夕方は四時に夕食、六時には自室にはいつて勉強をするという生活には一分いっぽんのくるいもなかつた。また、人と会うときは、必ず袴はかまをつけた正装せいそうであつた。



昭和六年（一九三一）六月二十六日、七十歳しじゅうごさいの生涯しょうがいを閉とじるまで、健次郎は、まさに『ならぬことはならぬ』の会津魂たましひを身をもつて実行した人だつた。